

学校通信 強い網

2017年8/9月号
 新版 第87号
 編集
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

理事長就任にあたって

駿台甲府学園 理事長 田口 浩一



駿台甲府学園の理事長を務めることになりました田口浩一と申します。どうぞよろしくお願い致します。駿台甲府高校は昭和五十五年、山崎春之先生によって創立されました。幸い、保護者の皆様にご協力いただき、地域の皆様の理解を得て、先生は、高校に次いで中学校、小学校と開校なさいました。そして平成十八年より、山崎春之先生のご令息で駿台甲府高校のご出身でもある山崎善久先生が駿台甲府学園の理

事長となり、小中高ともいっそうの飛躍を目指して、中学校の塩部への移転、学園全体のICT化などを推進してきました。ところが前理事長は急な病の進行により八月に志半ばで逝去なさいました。五十歳という若さであり、私たちも驚いた次第です。中学校の校舎建設については、遺跡調査も終盤となり着工直前でした。この中学校の移転を始め、山崎前理事長の志を継ぎ、さらに本学園を発展させていくことが私の使命であります。

私自身の自己紹介を簡単にさせていただきます。昭和三十三年生まれ、茨城県出身です。東京の私立中高一貫校を経て、慶應義塾大学文学部で社会学を学んだ後、駿河台学園に入職しました。駿台予備学校職員としてクラス担任、校舎長を経験したのち、予備学校営業部長、教務本部長、広報部長、教育研究所事業本部長を務めてまいりました。この間、社会の変化に伴い、生徒・学生の気質の変化や教育内容・入試の変化を間近で見てきて、大学進学の特長としてのノウハウは持ち合わせているものと自負しております。特に最新の受験情報に常に接していたこ

と、予備学校との関係が強いこと、全国の進学校を自分の目で見てきたことなどはすぐにも現場に活かせるものと考えています。

甲府で仕事を初めてまだ日が浅いのですが、生徒児童の皆さんの様子に、駿台甲府の建学の精神である「チャレンジング・スピリット」を感じます。朝、登校する生徒の気持ちのいい挨拶や奉仕活動、真剣に授業に取り組む姿勢、休み時間の楽しそうな表情、放課後の一生懸命なクラブ活動。いずれも生徒たちにチャレンジング・スピリットが浸透している表れだと思います。彼らを見るにつけ、子どもたちは学校との関わりが深いことを再認識し、彼らの将来を切り拓く大事な役割を担っているのだと改めて身が引き締まります。そして、駿台予備学校の基本理念であり、教職員が最も大事にしている「愛情教育」が、駿台甲府の先生方の中に息づいていることをうれしく思います。会議での発言や日々の言動から、教職員が一人ひとりに目を向け、生徒児童を中心に考えていることがわかります。

い特別なノウハウを注いできました。今後は私自身の経験を活かし、予備学校、教育研究所、その他の駿台グループとの連携をさらに強化することにより、生徒の皆さんを応援していく方法を考えております。その一つが教育改革への対応、具体的には新たな学力観、そして新共通テストが施行される大学入試への対応です。最新かつ確かな情報に基づいて教科指導を充実させたいと思います。ICTを活用した教育や英語教育の強化にも力を注いでまいります。しかしながら小手先のテクニックではなく、本質的な学習を行うことにより真の実力を養成するということ何ら変わりません。大学入試を突破するためには伝統を守り、新しいことに挑戦していくという姿勢が必要と考えております。そして中学校舎の建設を始め、ハード面での充実も成さねばなりません。毎日の授業、学校生活が充実している、生徒各自が意欲を持って目標に向かい最善の努力を行うような学校、先生方が生徒一人ひとりの様子をしっかり見て支える学校が理想です。私も全力を尽くす所存です。

小学校、中学校、高校の児童生徒が安心して学校生活を送り、志望が実現するだけではなく、人として大きく成長できるよう、努力してまいりますので、保護者の皆様にはよりいっそうのご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

これからの小学校教育

駿台甲府小学校校長 坂本 宏行

駿小では、1学期に運動会、2学期9月には6年生の北海道釧路・知床方面の自然体験修学旅行や5年生の国立科学博物館・JAXA筑波宇宙センターなどの宿泊体験学習も無事に終了し、落ち着いた学校生活を過ごしています。

前回の2008年学習指導要領の改訂においては、「ゆとり」か「詰め込み」かの二項対立を乗り越え言語活動を充実させることにより、「習得・活用・探究の学習サイクルの確立が図られました。最新の国際的な学習調査（PISA, TIMSS）で、義務教育で学ぶ子どもたちが国際比較においても高い学習成果をあげています。今回の2020年の学習指導要領改訂は、前回の改定の延長線上に、子どもたちの知識の理解をいかに深めるかが焦点となっています。また、今回の改訂の背景

となっている社会の構造的な変化の一つとして、AI（人工知能）の飛躍的な進化があげられています。AIがどんなに進化し思考できるようになっても、その思考の『目的』を与えるのは人間であることを忘れてはいけません。子どもたちの知識の質を高めるために①知識及び技能②思考力、判断力、表現力など③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で整理されています。日々の授業における創意工夫などを足場として、「何のために学ぶのか」という学習の意義について、学校教育の蓄積を資質・能力という形で表されま

した。

「主体的・対話的で深い学び」はこれまでの教育実践を踏まえて授業を見直し、改善する必要があるということ。今まで各教科の「見方や考え方」を大事にしてきましたが、これからは各教科の学習の中だけではなく、大人になって生活していく中でも重要な役割を果たし、変化する社会でも通用する見方・考え方を深い学びとしています。また、教科横断的な学習や習得・活用・探究のバランスは学校全体でも教育内容や時間配分や改善というマネジメントも不可欠であります。

さて、具体的な改訂のポイントは、外国語教育の充実です。小学校5、6年生の外国語（英語）が正式教科に格上げとなり、外国語活動の開始が小学校3年生に前倒しされます。中学校では、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場とするために、授業は英語で行い、他教科で学習したことや学校行事などで活用することが盛り込まれています。

既に駿小では開校当時から英語を重視し、1年生からネイティブ講師による授業を展開しており、本学園グローバル教育推進室と共同で小・中・高12年の英語カリキュラムを改良し、実践を開始しています。特に5、6年生では、駿中接続を意識し、駿中の英語教諭による指導も取り入れました。

さらに、小学校からのプログラミング教育が必修化となります。現在の社会生活においてはコンピュータが不可欠なものとなっており、情報の収集や

整理や発信なども行われることが当たり前になっていきます。プログラミング教育を通して、そうしたパソコンを活用した情報活用能力や論理的思考の育成を目指しています。中学校でも技術・家庭において実施されます。生活や社会における問題をプログラミングを活用し、システムを構築し、解決に導くまでを目標としています。センサーに反応して機器を動かすなどのプログラミング教育などが想定されています。

駿小では4年前から電子黒板やHDMIを本格的に導入しICT教育を推進してきました。昨年、5年生が各種センサーを搭載した車型ロボットにHDMIからプログラムを転送し、動作させるワークショップを開催致しました。今年度は、授業内クラブや公開授業で一般向けにも実施しました。2学期からは、3年生以上でプログラミング授業を実施する予定です。

2020年は、小学校の学習指導要領改訂だけでなく、大学入試改革が行われ、センター試験が廃止され、新たなテストが開始されます。この新テストを最初に受験するのは現在の中学校3年生ですが、中学生はもちろん小学校の児童にとっても重要です。新テストが評価の対象としているのは、今回の改訂の柱である子どもたちの知識の質を高めるための「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」や「主体性・多様性・協働性」です。これからの時代をより良く生きるための改革ということでしよう。駿高では、1年生から生

徒一人ひとりの興味・関心からスタートし、主体的な学びを深められるよう新たなコースフィールド制を導入します。学びを地球規模で変化する社会を国際的な視野で探究する「グローバルシジョン」、人間とは、社会とは何か、人文科学の領域を探究する「ヒューマニティーズ」、自然法則はなぜ、どのようにできているのか、自然科学を探究する「ナチュラサイエンス」、病はなぜ生まれるのか、どうやって人はそれを克服するのか、医療を探究する「メディカルサイエンス」と4つのフィールドに分かれます。そして国立大及び難関市立大を目指す「コアコース」、東京大学をはじめとする世界トップ100大学や最難関国立大や国立大医学部志望者を目指す「スーパーコース」、将来高いレベルや高いステージでスポーツ選手として活躍したい、健康科学の探究を目指す「アスリートコース」と生徒の探究したい目標に合わせたコースに分かれて行きます。

本学園は、小・中・高12年間一貫教育です。小学校高学年にはこれからの中・高の6年間についての情報を伝えることは、将来について考えるきっかけとなるでしょう。

児童生徒一人ひとりに社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な力を我々もサポートし、共に育んでいける小学校教育を目指します。

六位入賞の快挙

小学校 望月 一志

七月三十日(日)から三十一日(月)東京都千代田区の日本棋院会館において、「第十四回文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦」が行われました。各県の代表が集まる中、山梨県の代表となった駿台甲府小学校五年生の松下寛明、坂本竜、清水捷映の三人は、三十日(日)のブロック予選を見事に勝ち抜き、三十一日(月)の決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント初戦では、山口県の田布施町立麻郷小と対戦しましたが、善戦しましたが、惜しくも敗れてしまいました。その後順位決定戦では、熊本県の熊本市立託麻原小を二勝一敗で破りましたが、次戦で、昨年準優勝の京都府の京都市立御所南小に敗れてしまい、六位入賞が決まりました。三人は、昨年も同じメンバーで山梨県代表として出場しましたが、ブロック予選で敗退しました。今年、日々の努力の成果が表れ、六位入賞という快挙を達成しました。来年は、さらに上位を目指して頑張りたいと思います。



西関東吹奏楽コンクール出場

中学校 内山 晶夫



去る七月三十日(日)コラニー文化ホールで行われた山梨県吹奏楽コンクールにおいて、本校は中学校A部門に出場し、金賞ならびに西関東吹奏楽コンカールの県代表校に選ばれました。A部門初出場としては快挙達成!といえるでしょう。

そして九月九日(土)本校の体育祭と同日に新潟県(りゅーとびあホール)で開催された西関東では、50名の演奏者に本番の補助員として重要な役割を担った1年生の生徒11名も加わり、総勢61名全員が一丸となって課題曲の「スケルツァンド」、自由曲の「宇

宙の音楽」の演奏に臨みました。結果は銅賞でしたが、生徒は持てる力を出し切った演奏を披露してくれました。そして何より今回のコンクールと出場に至る日々の中で、部員たちは多くの貴重な経験を得ることができ、それらは他の何物にもかえがたいものであったと思います。

献身的な指導をいただいた外部指導者の天野先生をはじめ、駿高の吹奏楽部、校内の生徒たち、保護者の方々の多大な応援や協力を受けながらこれまで取り組めたことに生徒共々感謝しています。2年生中心の新しい体制での練習も始まりました。今回の経験を踏まえ、更なる発展を期し、そして感謝の気持ちと向上心、チャレンジングスピリットをこれからも引き継いで頑張ってください。

「史上初」陸上競技部

高校 三枝 幸雄

この夏も高校生の諦めない力、無限の力を目の当たりにしました。一つは山形インターハイ女子走幅跳で2年の山口華枝が、山梨県女子高校生史上初の6m越えて第4位入賞です。午前の予選一本目でいきなり6m04の山梨県高校新記録で予選トップ通過、夕方からの決勝でも6m超えを2本、全国ランキングは3位まで躍進しました。もう一つは関東選手権女子1600mリレーです。2年の岩浅優花、山口華枝、若杉彩乃と好位置で繋ぎ、アンカ一の唯一3年今村令那が埼玉栄と市立

船橋を最後の直線で抜き去り、駿台甲府高校史上初の優勝、歓喜のゴールでした。小さな県、山梨でもやればできることを実証してくれました。



応援ありがとうございました。

高校 奥山 昭隆

七月に行われました全国高等学校野球選手権山梨大会においては、皆様の熱い声援をありがとうございました。3年生にとっては最後の大会でしたが、準決勝で敗れてしまいました。3年生は12人と人数では少ないものの強い気持ちでチームを引っ張ってくれました。その3年生の強い気持ちを新チームも受け継ぎ、「甲子園で校歌を歌う」という目標を達成するために日々練習に励んでいます。感謝の気持ちを忘れずに、活動していきたいと思えます。今後とも応援よろしく願います。

〈スポーツ振興支援募金のお祝い〉

法人局総務部

皆様には、平素より私どもの学校運営に関してご理解とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

本学園では、昭和55年4月の高等学校開校以来、順次、中学校、小学校を併設し、駿台の教育理念である「愛情教育」に基づく教育活動に取り組みでまいりました。これもひとえに、卒業生及び関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。おかげ様で、グラウンドの人工芝化、ICT機器導入等、学習環境の整備を着々と進めることができました。

またスポーツ活動においても「文武共存」を掲げ、スポーツを通してコミュニケーション能力を育成し、豊かな心と他人に対する思いやり等の人材育成に取り組みで参りました。

今後ともスポーツ活動の競技力向上・強化を図るため施設費・運営費・遠征費等多くの費用が必要となりますので、スポーツ振興支援募金を設けました。

つきましては、個人及び法人団体の皆様に需要資金の一部のご支援を賜りたく、スポーツ振興支援募金につきましてご案内申し上げます。

本寄付金は、税務上の寄付金控除の対象となり、ご協力いただいた場合、個人の方は所得税法にて、法人の方は法人税法による優遇措置を受けることができます。

何卒、趣旨をご理解の上、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○目的

本学園児童・生徒のスポーツ振興活動支援・環境整備・関連施設・設備の充実

○使途

駿台甲府小学校・中学校・高等学校のスポーツ振興に向けた環境整備、施設・設備充実のために要する費用に充てさせていただきます。

○募集金額

一口 一万円以上（二口以上のご協力をお願いします）

○申込方法

お手数ですが法人局総務部（055・251・5584）までお問い合わせ下さい。ホームページにも掲載しております。（銀行振込他・クレジットカード・コンビニ支払・Pay e a s yによる決済が可能です）

〈中学校棟建築工事の進捗状況報告〉

これまで、本紙面で紹介しております塩部キャンパス中学校棟建築工事及びその関連工事について、その進捗状況をご報告いたします。

まず、中学校との供用を見据えた西館図書室の改修工事が終了いたしました。図書室は廊下との壁を撤去すると共に、吸音性があるカーペット敷きとし、書架等の備品を全て入れ替え、広く明るい図書室となりました。

次に、埋蔵文化財発掘調査ですが、9月末には終了する予定です。これまでに木製の樋・横槌・弓・ホゾの残る建築部材や土器類が多数出土しております。また、住居跡も多数検出され、この辺りが集落だったことがうかがえます。山梨県においては貴重な遺物・

遺構であるため、その保存と記録を進めております。

最後に、グラウンド西側にありました公道に埋設されている下水管を、公道の付け替えに伴い新設する工事を行っております。アルプス通り沿いに新たに下水管を埋設し、その管をアルプス通りの中央線ガード付近に東西に埋設されている下水管に再接続する工事です。工事は地下鉄工事でも使用されるシールドマシンの小型版（直径1m）を立て坑に下し、掘削と下水管埋設を同時に行う工事です。この工事が終了する頃、いよいよ中学校棟の建築工事が着工することになります。

まだまだ工事はこれからですが、在校生及び保護者の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

故 山崎善久 前理事長「お別れの会」



本学園前理事長の山崎善久が去る8月12日に逝去いたしました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご報告いたします。

山崎は、本校普通科の4期生であり、平成18年から学校法人駿河台西学園

記

○日時 10月1日（日）

午後1時～3時

○会場 アピオ甲府 本館1階「錦の間」

誠に勝手ながらご香典ご供物ご供花の儀は固くご辞退申し上げます。

また、ご来臨の際は平服にて、右ご案内のご都合のよい時間帯にご献花いただきますようお願いいたします。

法人局総務部